

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.12) 平成24年度:20～22.

視覚障害者の心の健康に影響を与える要因の検討

谷口亜紀子

題名：視覚障害者の心の健康に影響を与える要因の検討

キーワード：視覚障害者，心の健康，健康関連 QOL

旭川医科大学病院 看護部 谷口亜紀子

### 【目的】

視覚障害者の心の健康に影響を与える要因を明らかにし、看護支援の方向性を見出す。

### 【方法】

大学病院眼科外来に通院する 40～70 歳の糖尿病網膜症、緑内障、白内障の患者に対し、患者特性、日常生活の困難の内容、WHO の SUBI 尺度及び日常生活の状況(SF-8)について、対象者の視力を考慮し構造化面接法での調査及び一部郵送による質問紙調査を実施した。分析方法は SUBI を目的変数、患者特性及び日常生活の状況を説明変数とし、2 項ロジスティック回帰分析(変数減少法，尤度比)を選択した。検定における有意水準は 5%とし、統計ソフトは SPSSVer15.0J を用いた。

### 【倫理的配慮】

旭川医科大学倫理委員会の承認を得て実施した。

### 【結果】

調査は 170 人の協力が得られ、そのうち郵送での回答は 23 人であった。対象者の SUBI の心の健康度は平均  $38.6 \pm 7.0$  点、心の疲労度は平均  $51.4 \pm 5.8$  点であった。心の健康度には、職業の有無(オッズ比  $Or=6.1$ )、全体的健康感(2.0)、心の疲労度には、職業の有無(20.3)、体の痛み(2.7)、活力(3.5)で有意な関連がみられた。心の疲労度の下位尺度である社会的なつながりの不足には、職業の有無(0.5)、家族との関係には、活力(1.7)で有意な関連がみられた。

### 【考察】

視覚障害者は仕事を有することで社会的な責務を果たし、心の健康度を高めていた、その一方、視覚の障害により日常の活動が制限され、社会的な役割の喪失や他者との交流が減少し心の疲労度を高めていることが推察された。また、視覚障害者は家族との関係が良好で周囲からの支援を受けていると実感ができれば、活動する力が高まり心の疲労度を低下させるという強みが考えられた。以上から、看護師は、視覚障害者の日常生活への影響や身体的な苦痛をアセスメントすると同時に、社会生活が維持できるように周囲のサポート体制を調整し支援することが重要であると示唆された。



# 視覚障害者の心の健康に 影響を与える要因の検討

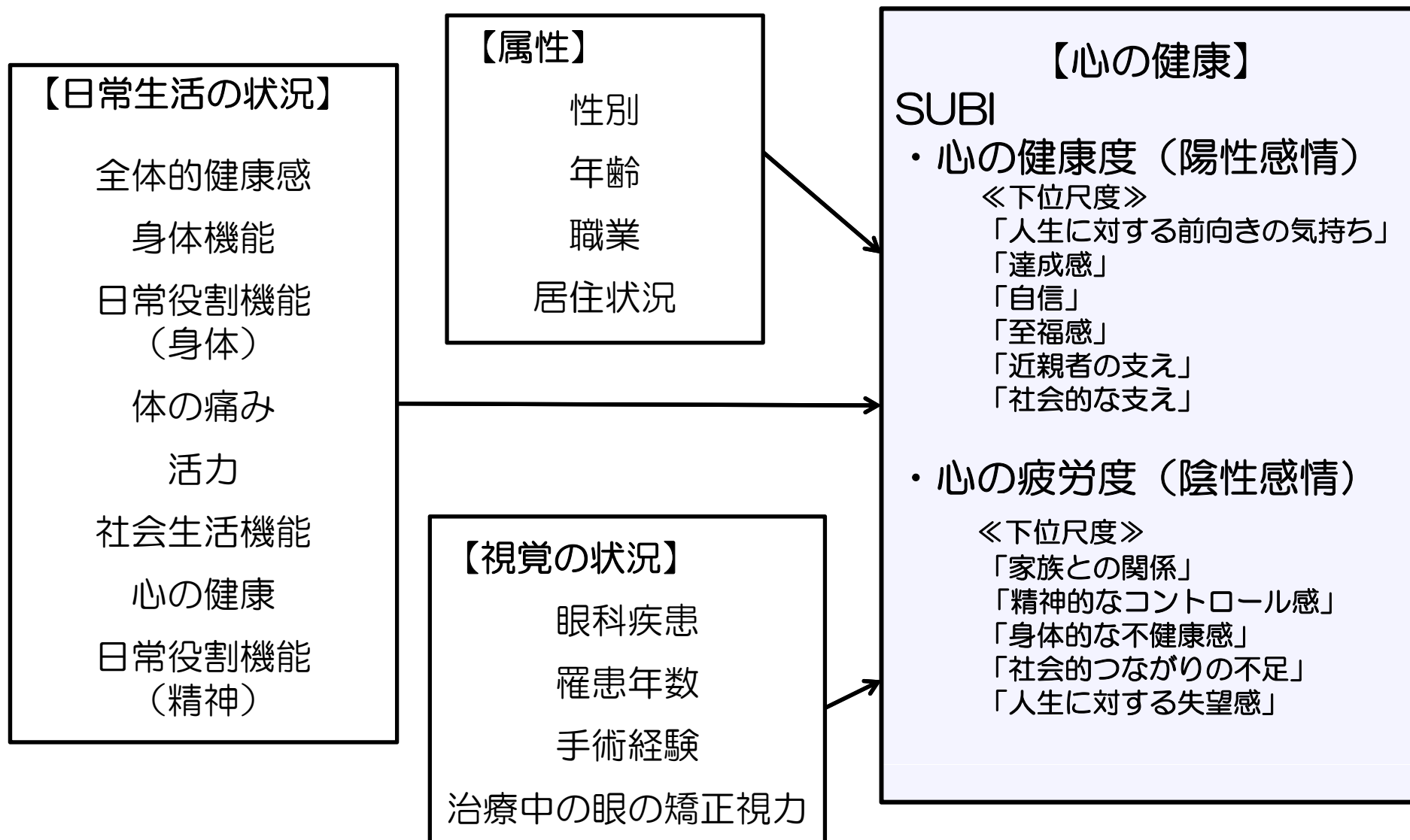
旭川医科大学病院  
谷口亜紀子



## 研究目的

外来に通院している視覚障害者の心の健康に影響を与える要因を検討することにより、心の健康の特徴を明らかにし、視覚障害者に対する看護支援の方向性を見出す。

# 概念枠組み





## 方 法

### <調査対象者>

外来通院中の40～70歳の糖尿病網膜症(2型糖尿病)、緑内障、白内障の患者170人

### <調査方法・内容>

対象者の特性と視覚障害による日常生活の困難、日常生活の状況(SF-8)、SUBIを使用した構造化面接法

### <倫理的配慮>

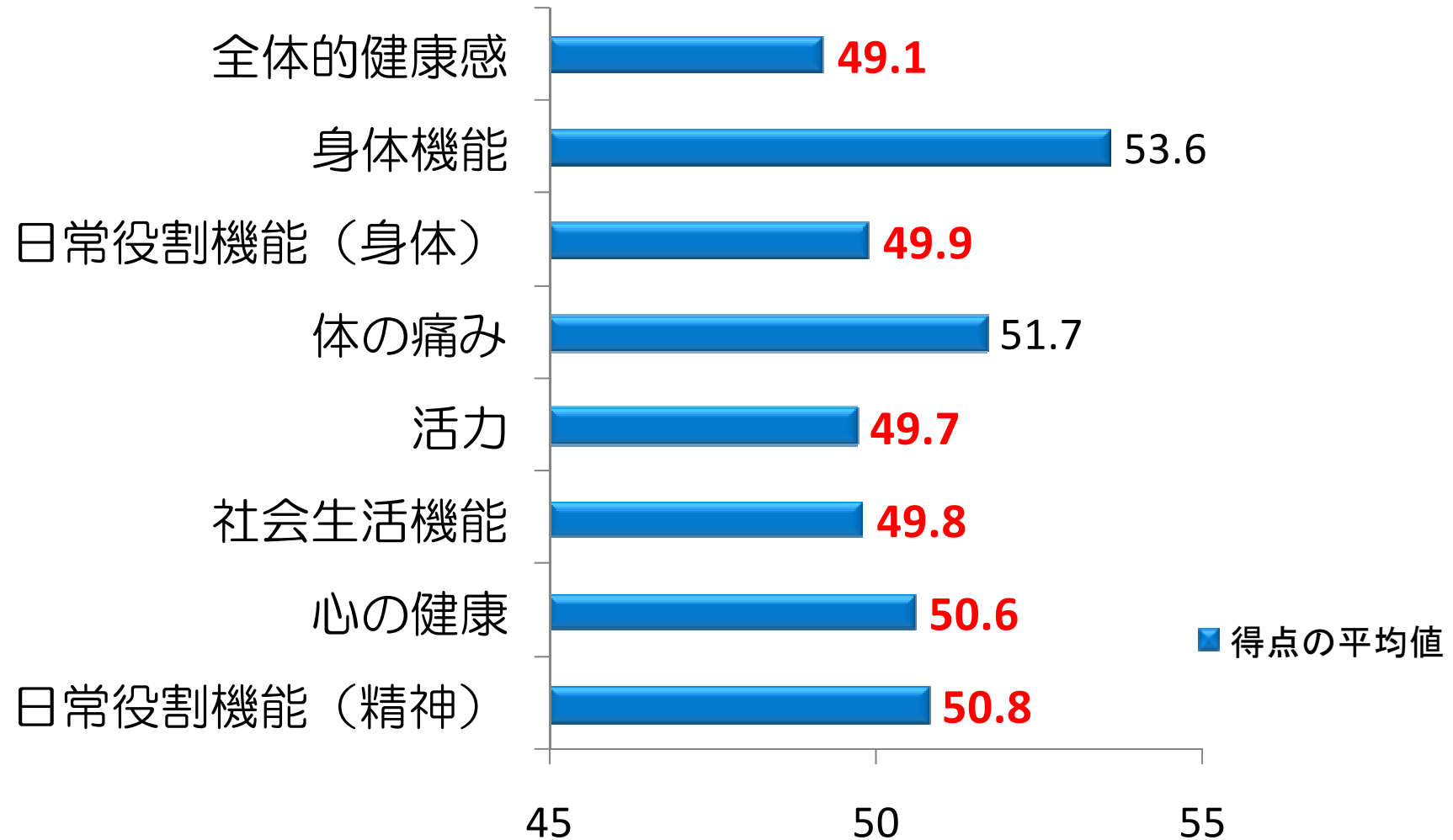
面接調査の際、研究の主旨・目的・方法、参加の自由性、データ管理、個人情報保護、結果の公表について文書を用い説明し同意を得た。

旭川医科大学倫理委員会の承認を得た。

## 属性および視覚の状況 (n=170)

項目		人数	%	平均年齢±SD
性別	男性	79	46.5	60.9±6.7
	女性	91	53.6	61.2±6.9
年齢	40～49歳	13	7.6	61.1±6.8
	50～59歳	43	25.3	
	60～69歳	104	61.2	
	70歳	10	5.9	
職業	有	67	39.4	
	無	103	60.6	
眼科疾患名	糖尿病網膜症	72	42.4	
	緑内障	57	33.5	
	白内障	41	24.1	
罹患年数	0～5年未満	99	58.3	
	5～10年未満	38	22.4	
	10年以上	33	19.5	
治療中の眼の 矯正視力	0.2以下	58	34.1	
	0.3～0.5	33	19.4	
	0.6～0.8	47	27.6	
	0.9以上	32	18.8	

# 1カ月間の日常生活の状況 (n=170)



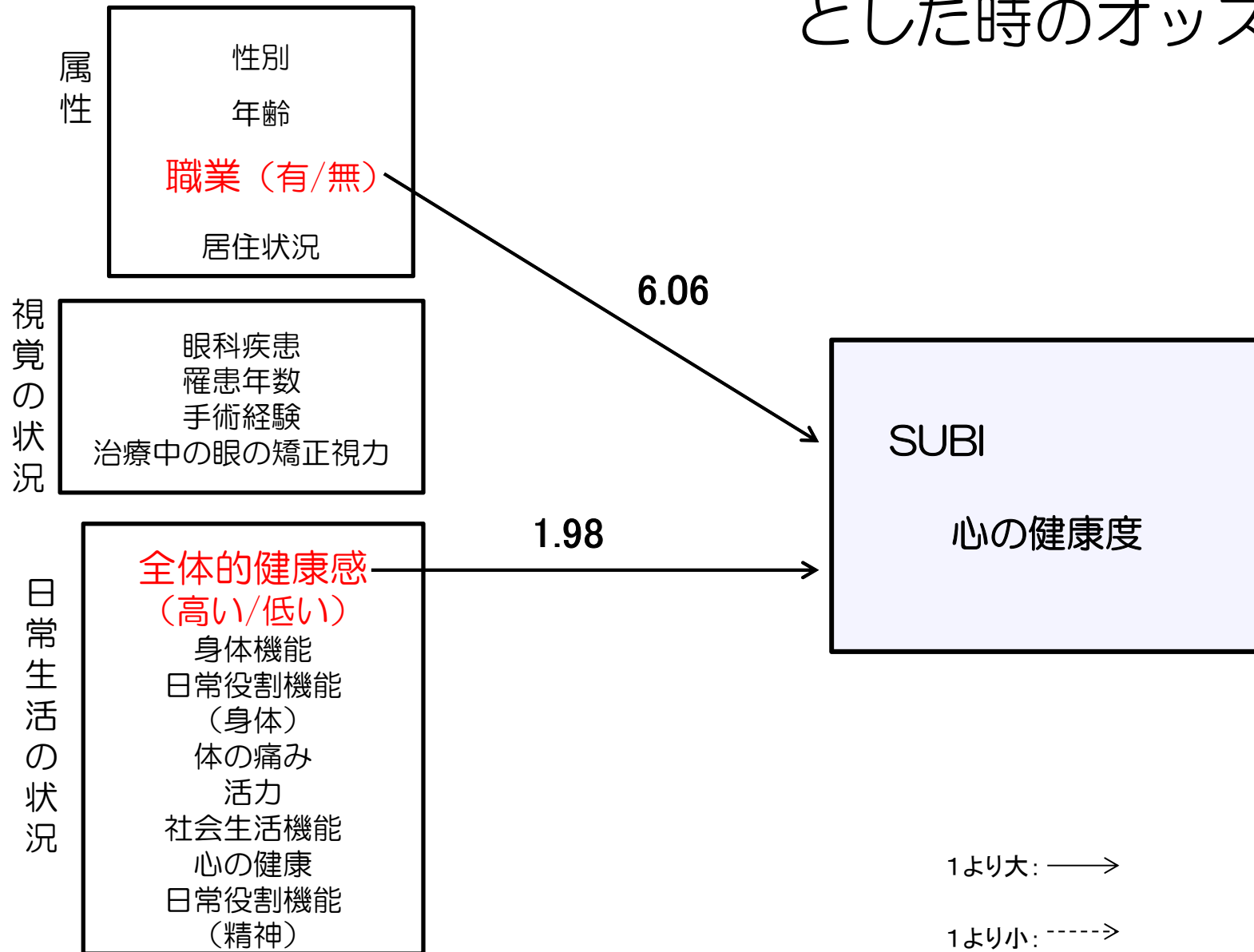


## 心の健康度および心の疲労度の性別の得点分布

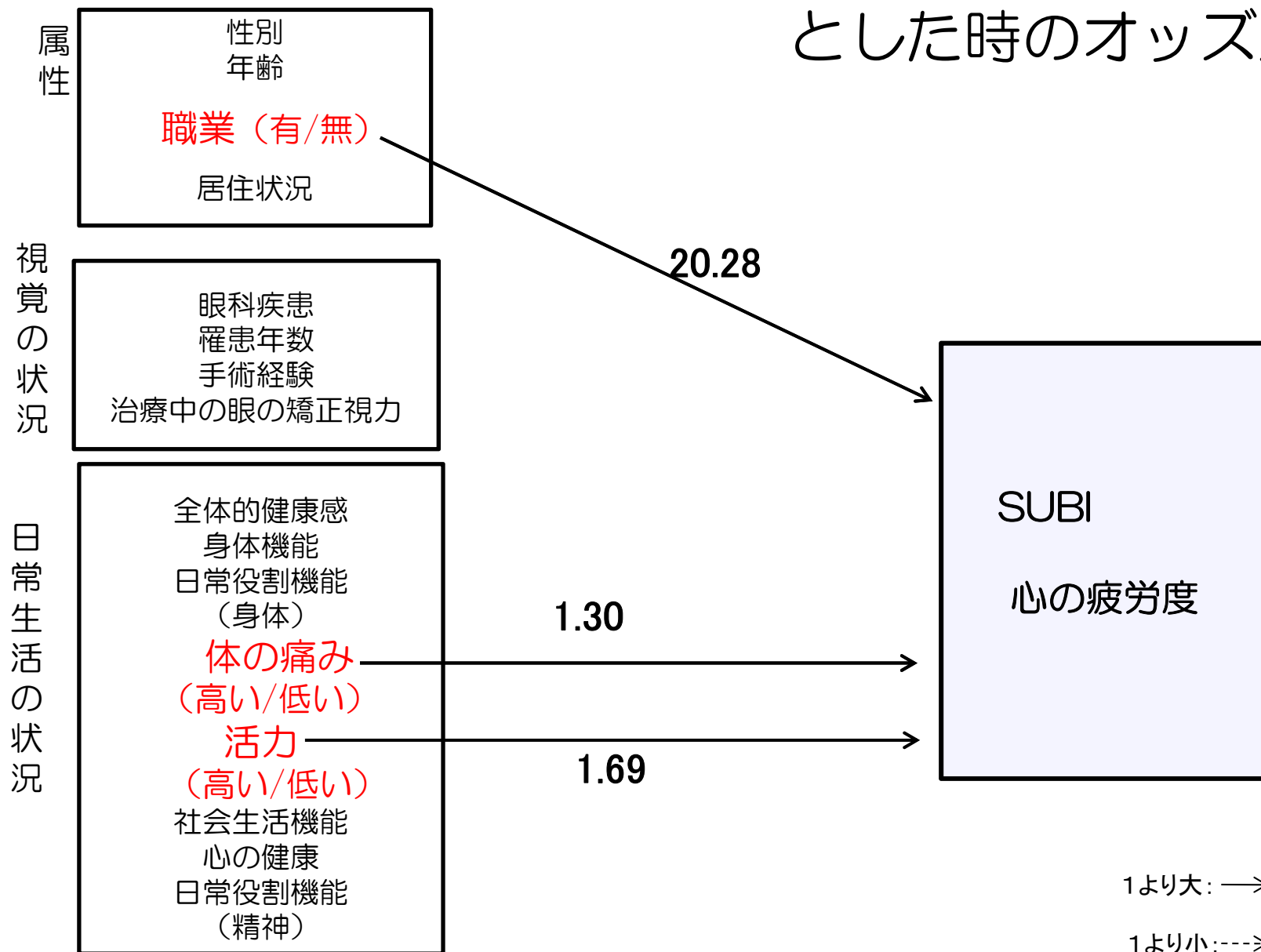
項目	男性 (n=79)		女性 (n=91)		P値 <sup>1)</sup>
	平均値	SD	平均値	SD	
心の健康度	38.1	6.7	39.5	7.2	0.238
心の疲労度	51.9	5.8	50.9	5.8	0.216

1) Mann-Whitney U検定

# 「心の健康度」を目的変数 とした時のオッズ比



# 「心の疲労度」を目的変数 とした時のオッズ比





## 結 論

1. 視覚障害者の1ヵ月間の日常生活の状況において、視覚障害による身体機能の影響は少なく、精神面への影響が強い傾向がみられた。
2. 心の健康度には、年齢、職業の有無、「全体的健康感」「活力」、日常生活の状況の「心の健康」「日常役割機能:精神」が影響を及ぼす要因としてみとめられた。
3. 心の疲労度には、職業の有無、「全体的健康感」「日常役割機能:身体」「体の痛み」「活力」、日常生活の状況の「心の健康」が影響を及ぼす要因としてみとめられた。

以上から、看護師は、視覚障害者の日常生活への影響や身体的な苦痛をアセスメントすると同時に、社会生活が維持できるように周囲のサポート体制を調整し支援することが重要であると示唆された。